

生活科部門

☆ 絵 評 ☆

今年は、長期間に渡って調べたり、数多くの実験や観察を試みたりと、努力のあとがみられる大作が多かったのが特徴的でした。ただ、残念なことに学年的に少し難しすぎるテーマを選んだために、うまく結論をまとめきれずに終わってしまったものもいくつかありました。生活科は「生活」に過ぎない教科です。理科的な観察や実験にこだわるのではなく、日々の生活の中でみつけた身近なことから取り組む姿勢が大切です。「ふしぎだね」「おもしろそう」と思う気持ちを「やってみよう」というエネルギーに変えていくことを期待します。

文部大臣奨励賞

「へびの研究」

石川県金沢大学教育学部
附属小学校

一年 石黒 真成



へびの行動や食べ物などを長期間に渡って細かく観察し、写真を豊富に使って、実験の様子をわかりやすくまとめています。観察の中から「へびは目が悪いのではないか」という仮説を立てるなど、着眼点のよさや発想のおもしろさが生きた作品です。また、へびの脱皮した皮やおしっこを保管したり、紙ねんどでへびや与えたエサの模型を作ったりと、へびに対する並々ならぬ思い入れが伝わってくる力作でもあります。

幼稚園でみつけたアオダイショウを飼うことになったことから、へびの観察が始まりました。そしてそれにシマへびやイグアナが加わり、百日以上に及ぶ観察ノートができあがりました。そのノートをもとに、観察の結果を三冊のスケッチブックにまとめています。「へびはどんなえさを食べるのか」をトノサマガエルやアマガエル、ミミズなどを与えて観察したり、動かないカエルに興味を示さないことから、「へびは目が悪いのでは」という仮説を立てて実験したりしています。



優秀賞

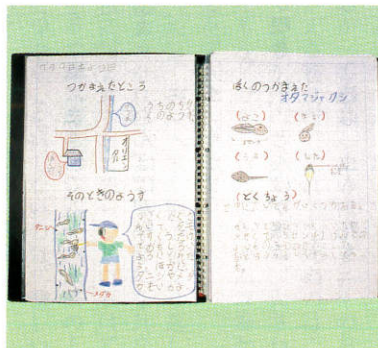


「アリジゴクのふしぎ」 栃木県栃木市立大宮北小2年 田代健志

牛乳パックで紙を作った昨年の経験を生かして、今年はいろいろな草での紙作りに挑戦しました。ヨモギやバナナの葉はおずきなどを使って意欲的に取り組んでいます。完成作品も、写真等を利用して上手にまとめられています。



「草で紙を作ろう」 岐阜県柳津町立柳津小2年 黒岩美陽



「オタマジャクシのふしぎ発見!!」 岐阜県柳津町立柳津小2年 山田 篤

「オタマジャクシはどうやってエサをさがすの」などの子供らしい疑問に対し、お母さんと予想を立てたうえで実験を行っています。予想を立てたわけや、ふしぎに思ったこと、実験の結果などもわかりやすくまとめられています。

▲二年間に渡るアリジゴクの研究が、ていねいにまとめられています。どんなところにすんでいるか」という素朴な疑問から、「すと大きなかんけい」といった細かい調査や持続力を必要とするもので、幅広く研究した大作です。

その他の受賞作品

◆優良賞 「ひまわりのかんさつ」(柳津町立柳津小1年 後藤結香 「しゃぼん玉のひみつ」 柳津町立柳津小1年) 今枝伸太郎 「よいいんあさがおのうんどうか」(瑞浪市立明世小1年) 成瀬沙也加 「あたまがもえちゃうよ」(柳津町立柳津小1年) 松田知世 「水」(大阪教育大学教育学部附属天王寺小1年) 本間崇志

◆佳作 「いろいろなねんどであそぼう」(各務原市立蘇原第一小1年) 金武未樹 「うちゅうの魚と地きゅうの魚」(白百合学園小2年) 中井咲希 「くつきんぐ日記」(岐阜市立長良西小2年) 矢島あさみ 「自作童話(全4作品)」(岐阜市立長良西小2年) 加納友希子 「シャボン玉のけんきゅう」(岐阜市立長良西小2年) 牧野由佳 「楽しい手話」(柳津町立柳津小1年) 三宅由紀 「135ひき はくのアメリカザリガニ」(板取村立板取第一小2年) 船戸利泰 「のつてみたいしゃぼん玉」(板取村立板取第一小2年) 長屋弘照 「やっぱりはくはカナヘビがすきだ」(武芸川町立寺尾小1年) 恩田翔太・恩田裕太 「天王寺区の公園めぐりパートII」(大阪教育大学教育学部附属天王寺小2年) 桐山みなみ